

番号	1-2-1		表題	電気設備再構築工事の施工に関する創意工夫	
内 容	<p>電気設備再構築工事では、他工事との工程調整による作業時間の制約や、稼働中施設の設備を停止することによる運転管理への影響など、様々な問題が発生する。ここでは、電気設備再構築工事のうち、電気棟の新設時における問題に対応すべく、創意工夫によって作業の効率化を図った事例を報告する。新設した電気棟のEPS（電気配管区画）は、各階に床が無い吹き抜け構造であるため、ケーブルラックの取付やケーブル敷設作業時には、高い仮設足場を設ける必要があった。今回、ケーブルラックの支持金物に作業用の床と昇降用梯子の機能を付加したものを採用することで、以後の電気工事で仮設足場を組むことなく、ケーブルラックの取付作業やケーブル敷設が行えるようになった。また、維持管理の面でも、点検床としての役割を果たすものとなった。</p> <p>電気棟の床面仕上げモルタルには、速硬性かつ自己平滑性(セルフレベリング)を有するセメント系レベリング材を採用した。製品の自己平滑性により、通常モルタル打設時のような金ゴテ仕上げ作業が不要となり、速硬性とも併せて作業時間を短縮することができた。また、金ゴテ仕上げの跡が残ることもなく、床仕上げが良好な出来栄となった。</p> <p>今回、補助継電器盤の機能増設については、現地で作業を行う必要があったが、増設するリレー回路を予め製作工場部品盤に取り付け、ユニット化した盤内キットを作成することで、現地での作業を取付作業のみとすることができた。その結果、稼働施設における設備停止時間を最小限に抑えることができた。</p>				
キーワード	効率化、電気設備、再構築、設備停止				
処理区名	—	位置区分	—		
職種区分	設備	施策区分	再構築		
状態区分			新規性	新規知見あり	
実施年度	令和5年度		全体期間	令和6年度	
担当部署	計画調整部 設備設計課				
発表履歴	局内	令和6年度設計・工事事例発表会（カワセミ）			
	局外				
調査方法	直営調査				
関連情報					